



教科書問題を考える枚方市民の会などが開催した「市民集会」。「教育勅語」の復活を許さず、人権に配慮した教科書を採択するよう運動を強めます。(6/11 市民会館)

平和が いちばん

2017年 6月15日

第 120 号

平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会

急ぐ必要ない 図書館運営民営化

図書館・生涯学習市民センター複合館は効率化・サービスの向上を目的にして、昨年牧野・さだ2館の運営が民営化されました。1年が経過し、“検証”をきっちり行うことが必要です。当初の予測とは違い、経費の削減額は「1年2館で164万円」と発表され大きな削減効果はなく、今後指定管理料を増額しなければならない可能性もあり経費削減になっているとは言えません。

市が出した「検証」は、開館時間の延長による貸出数の微増と新事業ができたこと、利用者アンケートを数字で表にしたもの、そして利用者懇談会や社会教育委員会議会で出た意見をわずか6行にまとめたものだけ。アンケートで書かれていた多くの疑問や不満の声、専門家からの懸念の声は無視されています。結論ありきで真摯な検証とは言えません。これで残り6館も指定管理導入へ進むというのは余りにもずさんで粗いやり方です。

検証は様々な角度から多面的・多角的になされるべきです。財政的な現状とこれからの見込み、安定して継続して図書館サービスを担う専門職員の配置が確保できていくのか、中央図書館・分館・分室・自動車文庫が連携して一体的な効率的な運営ができていくのか、課題や問題点は何かなど、総合的に検証していくことが必要です。

国は昨年11月、「指定管理者制度は専門的人材の育成、確保が難しく・・・教育施設にはなじまない」と表明し、事実上断念しました。市も時間をかけて検証し、次に進むべきです。大きな変更をすることを今決めるのは尚早です。将来に禍根を残すことになりかねません。長い時間をかけ市民と一緒に築きあげてきた枚方市の素晴らしい図書館・生涯学習市民センターの機能を守り発展させるのか重大な岐路にあります。急ぐ必要はありません。

直言

国民ファースト！の日本に 真下 時子

先日の毎日新聞記事に「子どもの頃、学校まで歩道橋を渡るのと信号を渡るのとどっちが早いかというので、友達は歩道橋へ行ってしまい自分は信号を渡るしかなかった。そして交通事故に遭ってしまった。このとき自分には選択肢が一つしかなかった」という体験を例に、この大学教授は十分な情報と選択肢の中から選ぶことができることの重要性を説いていた。記事は病気の治療方法に関しての情報と選択肢の話であったが、すべてのことに当てはまる。

このところテレビでAとSの発言を聞き、画面で顔を見るだけで気分が悪くなる。与党多数をいいことに独裁しか思えない振る舞いの現政権。詰まるところ、この情報と選択肢の無さに大きな原因があるのだ。次の国政選挙で与野党拮抗する(か?)まではこのまま続くのか、ならばとにかく注視しておくしかないか・・・今の状態では消去法でしか選べない。できれば

ば、こんな考えを持った政党があつたら一票投じたい。

- ✓ せめて平均的国民と同レベルの暮らしをし、国民ファーストが当たり前と思う
- ✓ 保育所から大学までの費用は無料。ただし卒業の判定はきちんと行う。
- ✓ 医療、介護も無料。これらの分野での雇用も潤沢に。
- ✓ 財源は法人税と個人の所得税を中心に。
- ✓ 他国からの侵略に対する防衛は、防災と同じように考え
- ✓ 食料や水、場合によってはシエルターなど国民が生き延びるための備えをしておく。
- ✓ もちろん米軍の基地は撤退してもらおう
- ✓ 他国に貧困や紛争があると
- ✓ ころへは食料と医療をもって紛争解決にあたる
- ✓ 再生可能エネルギーを推進

財源は?と迫られそうだが、そこは家計のやりくりと同じで、税収入に対して何を優先して支出に充てるか、考えたいでしょう!

ホッと タイム

子どもたちに真実を伝えない 軍国主義教育の恐ろしさを痛感

松田久子



楠葉生涯学習市民センターの「5月祭」で「少年期は戦争中だった」と題する鶴島昭雄さん（尊延寺在住）の話の話を聞きました。鶴島さんから直接、戦争の話を聞かせていただいたのは初めてですが、話を聞いて軍国主義教育の「洗脳」の恐ろしさ、とりわけ少年期の子どもたちに与える影響の大きさを強く感じました。そのことを鶴島さんは話の中で「子どもの頭は、スポンジのように柔らかく何でもすぐに吸収する。それが歳をとると、だんだんブロックのように頭が固くなっていく」ということを繰り返し強調されていました。

森友学園問題で「教育勅語」が改めてクローズアップされましたが、その精神を体現する姿が鶴島さんの少年期そのものです。父親は軍国主義に反対する民主的な人

でしたが、鶴島さんはそんな父親が嫌いを乗り越し恥ずべき存在と感じていたと話されました。このことは親の影響よりも国家、社会の影響がいかに絶大であることを示しています。街頭で署名活動をしていると、戦争を体験しているであろう世代の人たちの中で「安倍さんを支持している」とか「軍事力は必要や」と言いながら通り過ぎていく人もいます。私には、マスコミの影響とはいえ、戦争を体験した世代のその言葉はなかなか腑に落ちないので鶴島さんに尋ねてみました。すると鶴島さんは「そういう人たちは、本当の戦争の恐ろしい体験をしていない。どこの戦地に行ったのか聞いてみたらよい」と実に明快に答えていただきました。

会員募集 - 年会費 2000 円 郵便振替

口座番号 0094-3-192938

加入者名 平和な枚方をつくる市民の会

配達員募集 - スタッフに声をかけて下さい

手塚たかひろ 議員日誌

5月15日～17日 **市議会本会議** 今年度の議長などが決まった。私は厚生常任委員と民生委員推薦会委員になった。議会の透明化

の推進を求めて、17日新議長に「すべての議員が予算・決算委員会のどちらかに参加できるように」「各委員協会の議事録作成すること」などの「議会改革の要望書」を提出した。

5月17日 **内閣支持率急落** 「加計学園の獣医学部新設が総理のご意向」で進められたことを示す文書の存在を前文科省事務次官が認めたことがマスコミで報道された。しかし、政府は文書の信ぴょう性を根拠もなしに否定し、まともな調査もしない。おまけに自民・公明は国会での証人喚問にも応じようとしな。誰が見てもおかしい対応。安倍政権への疑惑はますます深まるばかりだ。

6月1日の日経新聞電子版では安倍内閣の支持率は26.7%に急落した。安倍内閣退陣への始まりにしたい。森友・加計疑惑の徹底究明、共謀罪法案廃案、憲法改悪反対の声を大きくしたい。

5月20日 **趙博さんの一人芝居「泥の河」を鑑賞** 彼の熱演に人に対するやさしさを感じた。彼が鋭く厳しい権力批判をできるのは、土台に優しい気持ちがあるからだと思う。運動には優しさが不可欠と痛感した。

5月29日 **映画「独裁者」** 枚方市人権協会総会の後、チャプリンの映画「独裁者」を観る。1940年にヒットラー批判として作られた映画。自由と民主主義、平和の大切さを訴えるチャップリンの言葉は感動的だ。映画の「ヒットラー」と安倍首相がダブル。恐ろしい。私は声を上げ続ける。

5月24日 5月分議員報酬から217,600円を大阪法務局に供託 **私は政務活動費は1円も受け取っていません**

〒573-0027

枚方市大垣内町

2丁目8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)

鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)

奥村 秀二 (弁護士)

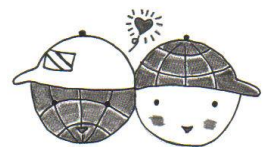
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛 (枚方市議員)

スタッフ 松田 久子 (「すずらんの集い」代表)

メールアドレス: hiratkatasiminokai@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://hiratkatasiminokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク

塔本賢一さん作